



# 共済福祉会だより

社会福祉法人 共済福祉会 発行責任者 石津博士  
 住所 静岡県田方郡函南町平井717-2 TEL 055(978)4100  
 ホームページ <http://kyosaifukushikai.jp/>  
 e-mail: info@kyosaifukushikai.jp



田子の浦にうち出でてみれば白妙の  
富士の高嶺に雪は降りつつ

## 謹賀新年



理事長  
石津博士

新年あけましておめでとうございます。  
みなさん御揃いで新年をお迎えのことと思います。今年も、皆さんにとつて輝かしい年となりますよう祈念しつつ新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、地域の皆様はじめ関係各位の皆様にご多大のお世話になり、特段大きな問題もなく利用者の皆さんに安心・満足して頂けるサービス提供に努めることができたのではないかと職員一同感謝申し上げます。

特に昨年は、三年に一度の介護制度および報酬の改定があり、制度改正面では、社会保障財源の厳しい状況を踏まえ、施設介護から在宅介護

へ軸足を転換し、合わせて医療と介護が連携した地域包括ケア構築に向けた方向が色濃く示されたこと、および報酬は実質的にはマイナス改定と言われ、事業運営にも一定の影響を及ぼすのではないかと慎重に取り組みましたが、いろいろと創意工夫する中でその影響を最小限にとどめ、利用者・家族の皆様にご迷惑をかけることなくサービス提供ができていくことに安堵しているところです。

これからの介護事業を取り巻く環境は、超高齢化社会の到来（わが国の七五歳以上の人口割合は、現在一〇人に一人ですが、二〇三〇年には五人に一人、二〇五五年には四人に一人になると推測されている）による介護需要の高まりへの備えとして地域包括ケア体制構築に向けた改善が一層図られていくものと考えています。したがって、私たち介護事業者に課せられた役割は大きく、ただ単に現状のサービス提供体制を維持していくだけでなく、地域の関係者の皆さんと連携してその地域にあった包括ケア体制構築に知恵を出し合い取り組んでいくことが強く求められています。そのことを十分認識し時代を先取りする気構えで、今年がスタートの年となるよう努力していくことを申し上げ、引き続き皆様方のご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とします。

### 高齢者福祉部

二〇一三年  
新年のご挨拶

高齢者福祉部長

宮本良美



新年あけましておめでとうございます。  
今年も幸多き年であります  
ようお祈り申し上げます。

昨年、絆を信じて歩き続けた一年でした。一方で、希望を胸に空を見上げるニュー・アースが多くありました。太陽がリング状に見える金環日食を見上げ、開業した東京スカイツリーを見上げ、国際宇宙ステーションでの数々の実験を見上げてきました。

また、科学技術における日本の底力を見せつけたノーベル賞の受賞、スポーツではロンドン五輪で史上最多のメダル獲得など記憶に刻む偉業の数々がありました。

新たな年、二〇一三年は、癸巳（みずのとみ）で、植物

の内部にできた種子が大きさを測れるまでに大きくなり、草木の成長が極限に達した状態を表すといわれています。

私たちも変身の時を迎えております。殻を破りもつと自然に、もつと滑らかに「こうなりたい」という思いを強く持ち続ければ、きつと誰でもスリと自分の殻を抜けることができます、と年明け早々思いを馳せていると、恒例の箱根駅伝を走る選手の熱き戦いが目に飛び込んできました。

選手たちは、日々、喜びや悔しさ、挫折そして新たな挑戦と心身を鍛えこの日を迎えたのだと思います。「たすき」は多くの仲間の思いが込められた宝物であり、チーム一丸となつて伝えていきます。

私たち福祉の現場でもチーム一丸となり、利用者に学び利用者にも尽くす努力と精進が成長の秘訣として先輩から後輩へと引き継がれています。

さらに質の高いサービスを目指し、最善と信じる道を進む努力を積み重ね、利用者の方々と職員が至福の時を存分に分かち合える施設を目指してこの一年取り組んでまいります。

### 年の始めに思うこと

高齢者福祉部課長

増田久美子



私のお正月のイメージは、しんと冷え切った空気、お雑煮から立ちのぼる湯気、テーブルを囲む笑い声といったものです。

年末年始は餅つきや大掃除、台所仕事など思い出す場面にはいつも、忙しく立ち働いていた祖母の姿があります。父方母方どちらの祖母も、その時代の多くの人がそつであったように働き者でどんな困難にも負けない強さを持った人たちでした。

今、私は介護サービスを必要とされている多くの方たちと接しています。身体的にも精神的にも辛い状況にあり、大きな不安を抱えておられることが切々と伝わってきます。ですが、そのお一人お一人と言葉を交わす時、その方のこ

れまでの人生が垣間見え、今ここにある姿はほんの一面でしかないことがわかります。その方が背負ってきた、あるいは背負ってきたものは測り知れないほど大きく、尊いものです。私たち職員は、介護する立場として意識しないままに、人としてのその誇りを傷つけていることはないのか、常に自戒しなければならぬと思います。

今日も利用者の皆さまの姿に、限りなく強く優しく働き者だった祖母たちの姿が重なつて見え、大事なことを教えてくれている気がします。

### 利用者忘年会

伊豆白寿園

介護主任 宮内孝文

昨年の二月二十六日に憩いの広場において、各フロアの利用者が一堂に会し、賑やかに平成二四年利用者忘年会が開催されました。

まずは、百歳になられた利用者乾杯の音頭をとっていただき、一年間お互いの健康に感謝いたしました。

余興では、利用者と職員が合同で行い、カラオケのデュー

エイトや歌に合わせた職員のリョリの披露がありました。特に、施設長とのデュエイトは人気で、一緒に歌う利用者との息もぴったりでした。

次の演目は、職員が三味線に合わせ利用者が歌いました。利用者は生の三味線の音色に耳を傾けられるとともに、普段見ることのできない職員が一面に目を見張られる様子が伺えました。

他にも、日頃の活動の中から創作体操や、炭坑節を皆で踊り、笑顔の溢れる時間を過ごすことができました。

夕食は、利用者から希望の多かったにぎり寿司でしたが、大きく口を開けて頬張り、「おいしいね二賑やかで楽しかったね」等の声を多くの方から聞くことができました。これからも、利用者を楽しんでいただけるよう努めて行きたいと思っております。



### 障害者福祉部

#### 新春を迎えて

障害者福祉部長

矢野 秀 男



平成二五年も幕開けし、よい年をお迎えいただけましたでしょうか。昨年一二月の衆議院議員選挙では国民の期待に反した民主党政権に変わり、自民党政権が復権となり大きく揺れ動いた年の瀬でありました。景気回復など、今度こそ国民の期待に心えてくれる政治が求められています。

一方スポーツの世界では、ロンドンオリンピックでの日本選手の活躍はすばらしいものがありメダル数三八個となりました。特に女性選手の活躍ではレスリング・柔道・サッカー、そしてパラリンピックではゴールボールで優勝候補

の中国を破り金メダルに輝きました。チームワークの勝利と言えるでしょう。

さて、今年四月一日から、障害者総合支援法が施行されます。現在の自立支援法の廃止ではなく改正の意味を持つて成り立ちましたが、当時者団体などからも批判の声が上がり、今後三年後の見直しも含め動向に注目していかなければならないでしょう。

障害者福祉部の各事業所は、利用者・家族の皆様への良質なサービスを提供し、皆様方に満足していただける事業所となるよう努めてまいります。皆様にとって良い年でありますよう職員一同心から願っております。

### ナースコールのリニューアル

伊豆ライフケアホーム

介護係長 木村 典子

開設から一五年を迎え、昨年の一月、二週間をかけて施設全体のナースコールを新しくしました。

浴室には新たにコールを設置し、職員間の連携がスムーズに出来るようになりました。また、コール表示が居室ご



とから利用者ごとに変更し、誰からのコールかすぐに分かるようになりました。

今までは、一般的なコールボタンを職員が利用者の機能に合わせ工夫して何とか使用してききましたが、今回のリニューアルでは、声に反応するプレスコール、少しの力で反応するフレキコール、足で押せるフットコール、利用者の動かせる部位で使えるボタンコールなど、様々な種類を導入しました。さらにコールの押しボタン部分は夜光で、夜間でもコールの位置が確認できます。

今までは、利用者に不便をかけることがありましたが、リニューアルすることによってこれまで以上に利用者にとって

ている安心』を感じていただけるのではないかと思います。

### 希望会の司会を終えて

伊豆リハビリテーションセンター

利用者 田中 裕一



利用者忘年会である希望会の司会を初めて務めさせていただきました。とても緊張しました。前日寝ないで希望会の挨拶を考えました。ご来賓の方々は年末の忙しいこの時期に希望会にご参加いただきとても感謝しております。私のつたない挨拶でしたが、とても好評で嬉しく思っております。

食事は、私の大好きな松田聖子の赤いスイートピーや、あずさ2号を当てることができました。その日は司会も無事に終わって、ほっとしてよく眠れました。

私は以前から祭り騒ぎが大

好きで、東京にいた時も浅草の三社祭にも参加して、よく御神輿なども担いでいました。人前で話すことや歌うことも好きでしたが、この病気になる、言葉がはつきりしない部分もあったので、自分の意思がはつきり伝わるのかと不安な一面もありました。しかしながら今回、司会がなかなか好評だったこともあり、自分に自信もついてきました。今年には年男でもありますし、リハビリを頑張り、早くこの病気を克服して東京に戻り社会復帰できることを心から望んでいます。



# 大切にしたい気持ち

伊豆白寿園

担当係長 青木章一

最近、利用者やゆつくり話をする機会が少なくなり、とても残念に感じています。私の役割が利用者を間接的に支援することを主とすることが多くなってきたからです。

私が福祉の専門職を志そうとしたのは、高校三年の夏でした。それまでは、精密機械工学、薬学、電気工学と理系の仕事に就こうと考えていました。しかし、小さい頃に知的障害の同級生と接した記憶が頭の片隅にあり、どうせ仕事をすれば、人のために役に立つことをしたいと決心しました。

両親からは、その道で本当に良いのかと聞かれはしましたが、幸いなことに反対されることもなく、今の道を歩んでいます。

当時、「福祉」「介護」というイメージが強く、当然そのようなことを勉強するだろうと考えていました。しかし、実際に学んだことはソーシャルワークに関するこ

とが主であり、介護に関することはあまり学ぶことはありませんでした。その中で、人の役に立つ仕事は、何も直接支援することばかりでないことを知り、間接的に支えることも重要なことであると気づきました。

とは言え、やはり利用者と直接お話をしたり、お手伝いすることが多いです。直接援助する中で、実際に関わっている職員は辛い時もあると思います。しかし、その中でしか得ることのできない充実感や温かい気持ちも多くあります。他の仕事では感じることもできないこれらの気持ちを大切にしながら、自分の選んだ道をしっかりと進んでいきたいです。



## ◆年男(男)年女(女)◆

### 巳年を迎えて

伊豆リハビリテーションセンター

介護係長 長谷川美恵子



リハでは毎年、年男年女が節分に豆まきをします。今年には巳年の四名が豆まきする予定です。

一年の無事とたくさんのお福を招こうと思っています。私にとって今年は大きな節目の年です。今までは多くの方に支えていただき頑張ってきました。これからは皆さんを支えへびのように地面に這って、縁の下の力持ちになれるよう努力していきたいと思っています。

### 心伝わる「コミュニケーション」を目指して

伊豆白寿園

ケアワーカー 高尾 一美

何度目かの「年女」を迎え、伊豆白寿園に勤務して早くも一一年となりました。



明るさだけが取柄と言えない私です。それを活かし、日々利用者との関わりの中で、コミュニケーションに役立っています。言葉遣い等の失敗もあります。

丁寧で心の伝わる言葉遣いにより、心の伝わる「コミュニケーション」を心がけ、今年も頑張りたいと思います。

### 感謝の心を持ち続けて

伊豆白寿園

看護師 土屋 清美



三年前に母が脳出血で倒れ、それを機に、毎日、白寿観音に一日ありがとうございます。

「と手を合わせています。」

母の病気をきっかけに、周囲の人々への感謝の気持ちが強く深くなりました。

利用者に、一日一日笑って生活できるように看護師として

ただでなく、家族の身になり言葉をかけ、笑顔をやさないようにしたいです。

### 私のモットー

伊豆ライフケアホーム

ケアワーカー 石戸 睦美



まだまだ未熟者の私ですが、早いもので人生二度目の年女を迎えました。私の仕事でのモットーは「いつも元氣！」です。元氣一杯、介護に励みたいですね。へびは恩を忘れず恩返しをすると言われていました。私もありがたうの気持ちで忘れずに一年を送りたいと思います。

ご寄付ありがとうございました

【寄贈品】

様 様  
公益社団法人 あゆみの箱  
清水町社会福祉協議会

